

# 法華寺だより



## 〇 布施 〇

「ふせ」一般に仏事の謝礼として僧侶に贈る金品を指す。しかし、お金や品物だけでなく、親切な行いなども布施である。もともと仏教もともとと仏教

## 仏教語

くらしの中の

る布施へとなつていった。財物を与えて、飢餓などの苦しみや様々な恐怖に苦しむ人々を救済するという僧俗を問わない行為にも発展している。布施の語源はサンスクリット語の「दान」で、「与えること、贈り物」を意味する。日本語の檀那に当たる。「だんな」は布施からきている。  
【仏教語散歩】  
(さだまる新書)参照

## いざ挑戦 日蓮検定

【三級その③】  
日蓮聖人が没した武蔵国池上は、現在の都道府県名ではどこに所在するか？

- 1…茨城県
- 2…千葉県
- 3…東京都
- 4…神奈川県

## 開山上人法要

本樹院日果上人は、明治四三年四月叔父内山孝太郎翁から再三の招聘要請を受けてこの地に参り当山を開山いたしました。

由緒ある長崎の太寺での暮らしと比べようもない当時の帯広での日々。孝太郎叔父の深い信仰心と上人夫妻の熱心な布教活動は徐々に実を結ぶ。様々の紆余屈折を経て道東屈指の寺院として今日有るの賜です。昭和十二年五月六日、ハツ夫人等に看取られ享年六十三歳で霊山浄土へ旅立たれました。  
南無妙法蓮華經

- 1…茨城県 身延から湯治のため常陸の湯に向かったのですが
- 2…千葉県 安房小湊は生誕の地 本山誕生寺
- 3…東京都 大田区一・一・一 池上宗仲の屋敷
- 4…神奈川県 鎌倉は松葉ヶ谷法難の地 鎌倉から身延山へ

## ご案内

- 五月
- 六日 開山上人法要
- 十三日 環境整備、お花見
- 二十六日 仏教連盟花祭り
- 六月
- 十三日 環境整備
- 十八日 三大尊神大祭
- 二十四日 宗祖御降誕八百年慶讃 東部管区大会

心といのちの相談所  
老若男女幾つになっても悩  
みや心配事の絶えないもの  
……ご来所やお電話を……  
TEL 一三三・四〇三三

今月の聖語

かんき み あま  
歡喜身に余り

こころくる

心の苦しみ

たちま や

忽ち息む

【苦しみと合掌】苦しい時悲しい時、美しい姿に触れると心が和み落ち着きます。美しさの極みは、正ししき信じる心です。その心の現れが合掌です。合掌に導かれ、癒やされ、苦しみの少ない日々の生活を創造していくのです。

「忘持経事」より」

日蓮聖人御遺文

覚書

四月

八日 釈尊降誕会、花祭り

十三日 行学会

二十六日 帯刑教誨



一 休 み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）  
●第五章 日蓮宗の勤行

- 1 このような用意を (二)
- (3) お位牌をまつる

・お位牌はご先祖の抛り所です。葬儀の時は白木の札に戒名を墨書きし、仏壇の前辺りに遺骨と共に祀ります。四十九日に漆塗りの位牌に変えてお仏壇に納めるのが一般です。戒名は、生前の徳によつて居士・大姉などの位号が付けられる。その位号が書かれた札が位牌。裏には、故人の生前の名前、命日、年齢が刻まれます。位牌は、

「奉仕」感謝

☆布薩会と婦人会 様 法会の諸準備等々、いつもお手伝いご協力をいただきありがとうございます



法華和讃

(五十七)

りんじゆう ゆう そし おてぐるま  
臨終の夕べは祖師の御手車

ただしんじん ひとの  
唯信心の人ぞ乗るべき

なむみようほうれんげきよう  
南無妙法蓮華経

ミニ私見

私は両親が息を引き取る場面立ち会ったことがない。もう余り長くないなど思いながら、そのような結果になった。その様な私でも、祖師のお手車に乗れるのでしょうか？ お題目を唱えながら思うことがあります。

遺品ではないけれども、亡き人を偲ぶ形見ともいえるでしょう。

(4) 仏壇のお飾り

・お花もお灯明もお香も意味がある。花立て一対、ロウソク立て一対、線香立て一対、五具足。花立て、ロウソク立て、線香立てがそれぞれ一つで三具足と言います。お仏壇に向かつて右がロウソク、左がお花、中央がお線香や香炉を置きます。香や線香は仏様の徳、灯明は暗い迷いの世から明るい悟りの世界へ導くのです。花は、色と香りの徳があり、見る物の心を和ませ、周りを清めます。

編集後記

◆◆◆◆◆ 山崎記 ◆◆◆◆◆

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
- ※「日蓮検定」
- ※「日蓮宗信行読本」
- ※「日蓮と日蓮宗」
- ※「仏教語散歩」等々